

審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
I 審議事項					
1. 委員会関係					
提案1	(機能別委員会) 選考委員会 (1)分科会委員の決定 (新規4件)	選考委員 会委員長	B(5-10)	選考委員会における分科会委員を決定する必要があるため。	会長 内規12条 2項
提案2	(機能別委員会) 科学と社会委員会 (1)分科会委員の決定 (追加1件)	科学と社 会委員会 委員長	B(11)	科学と社会委員会における分科会委員の追加を決定する必要があるため。	会長 内規12条 2項、18 条
提案3	(幹事会附置委員会) 危機対応科学情報発 信委員会 (1)分科会委員の決定 (新規3件)	危機対応 科学情報 発信委員 会委員長	B(13-14)	危機対応科学情報発信委員会における分科会委員を決定する必要があるため。	高橋第三 部幹事 内規12条 2項、18 条
提案4	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改 正(委員の構成の変更 1件) (2)委員の決定(【委 員会及び分科会】追 加3件【小委員会】追 加1件)	(1)経営学 委員会委 員長 (2)各部 部長	B(15-17)	(1)分科会委員の構成の変更に伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。 (2)分野別委員会における分科会委員等を決定する必要があるため。	会長 各部部长 内規12条 1項、18 条
2. 提言等関係					
提案5	提言「専攻医募集 シーリングによる研 究力低下に関する緊 急提言」について日 本学術会議会則第2条 第3号の「提言」とし て取り扱うこと	臨床医学 委員会委 員長	C(1-21)	臨床医学委員会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第二部査読	臨床医学 委員会 天谷 雅 行委員 内規3条1 項

3. 国際関係

提案6	令和元年度代表派遣について、派遣者を決定すること	会長	B(18)	令和元年度代表派遣について、派遣者を決定する必要があるため。	武内副会長	国際交流事業に関する内規第19条2項
-----	--------------------------	----	-------	--------------------------------	-------	--------------------

4. その他のシンポジウム等

提案7	公開シンポジウム「アジア近隣諸国との対立と協働—学術ネットワークをいかに継続的に構築するか」	地域研究委員会委員長、政治学委員会委員長	B(21-22)	主催：日本学術会議地域研究委員会アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会、日本学術会議政治学委員会比較政治分科会 日時：令和元年12月20日(金)13:20～17:30 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認 ※シンポジウムの開催自体は10/31幹事会にて承認済。今回は政治学委員会比較政治分科会を主催に追加し、次第を一部修正したもの。	—	内規別表第1
提案8	公開シンポジウム「ゲノムビッグデータ解析の新潮流」	薬学委員会委員長	B(23-24)	主催：日本学術会議薬学委員会生物系薬学分科会 日時：令和2年1月17日(金)13:30～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案9	公開シンポジウム「グローバル行政ネットワークと国際機関：地球と共生するためのガバナンスの在り方を模索して」	政治学委員会委員長	B(25-26)	主催：日本学術会議政治学委員会国際政治分科会 日時：令和2年2月15日(土)13:30～17:00 場所：名古屋大学環境総合館1階レクチャーホール ※第一部承認	—	内規別表第1
提案10	公開シンポジウム「総合工学シンポジウム2020—文理の協創によって社会的課題に立ち向かう—」	総合工学委員会委員長	B(27-29)	主催：日本学術会議総合工学委員会 日時：令和2年3月12日(木)13:00～18:00 場所：日本学術会議講堂 他1室 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案11	公開シンポジウム「第2回ラーニングアナリティクスによるエビデンスに基づく教育に関するシンポジウム」	心理学・教育学委員会委員長、情報学委員会委員長	B(31-33)	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会・情報学委員会合同教育データ利活用分科会 日時：令和2年3月15日(日)13:00～17:30 場所：早稲田大学早稲田キャンパス国際会議場井深大記念ホール ※第一部、第三部承認	—	内規別表第1

提案12	公開シンポジウム 「歴史認識と植民地責任」	言語・文学委員会委員長、哲学委員会委員長、史学委員会委員長、地域研究委員会委員長	B(35-36)	主催：日本学術会議言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同アジア研究・対アジア関係に関する分科会 日時：令和2年3月15日(日)13:30～17:00 場所：東京大学法文2号館1番大教室 ※第一部承認	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム 「第9回防災学術連携シンポジウム 低頻度巨大災害を考える」	防災減災学術連携委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長	B(37-38)	主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会、日本学術会議土木工学・建築学委員会低頻度巨大災害分科会 日時：令和2年3月18日(水)12:30～17:30 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案14	Global Young Academy総会「科学の再生：包括性と持続性に向けた価値の変革のための感性と理性のリバランス」	若手アカデミー運営分科会委員長	B(39-40)	主催：日本学術会議若手アカデミー 日時：令和3年5月18日(火)～21日(金) 場所：日本学術会議会議室及び政策研究大学院大学(仮) ※若手アカデミーが開催主体のため、幹事会の承認のみ	三成副会長	内規別表第1

5. 後援

提案15	国内会議の後援をすること	会長	—	以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①第1回世界エンジニアリングデイ記念シンポジウム 主催：公益社団法人日本工学会 期間：令和2年3月5日(木) 場所：東京大学山上会館 参加予定者数：約100名 申請者：公益社団法人日本工学会会長 岸本 喜久雄 ※第三部承認	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	---	---	----	-----------------

II その他

	件名	資料(頁)
1.	今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は12月19日(木)13時30分開催	D(1)

【機能別委員会】

○委員の決定（新規4件）

提案 1

（選考委員会連携会員特別選考分科会）

氏名	所属・職名	備考
橋本 伸也	関西学院大学文学部教授	第一部会員
	第一部副部長、選考委員会委員	
溝端 佐登史	京都大学経済研究所長・教授	第一部会員
	第一部幹事、選考委員会委員	
武田 洋幸	東京大学大学院理学系研究科長・教授	第二部会員
	第二部幹事、選考委員会委員	
丹下 健	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部会員
	第二部幹事、選考委員会委員	
大島 まり	東京大学大学院情報学環／生産技術研究所教授	第三部会員
	選考委員会委員	

（選考委員会人文・社会科学選考分科会）

氏名	所属・職名	備考
三成 美保	奈良女子大学副学長・教授	第一部会員
	副会長、選考委員会副委員長	
町村 敬志	一橋大学大学院社会学研究科教授	第一部会員
	第一部部長、選考委員会委員	
橋本 伸也	関西学院大学文学部教授	第一部会員
	第一部副部長、選考委員会委員	
久留島 典子	東京大学史料編纂所教授	第一部会員
	第一部幹事、選考委員会委員	
	史学委員会委員長	
溝端 佐登史	京都大学経済研究所長・教授	第一部会員
	第一部幹事、選考委員会委員	
	経済学委員会副委員長	
木部 暢子	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立国語研究所副所長・教授	第一部会員
	言語・文学委員会委員長	
吉田 和彦	京都産業大学外国語学部客員教授	第一部会員
	言語・文学委員会副委員長	
戸田山 和久	名古屋大学大学院情報学研究科教授	第一部会員
	哲学委員会委員長	
小林 傳司	大阪大学 CO デザインセンター教授	第一部会員
	哲学委員会副委員長	
亀田 達也	東京大学大学院人文社会系研究科教授	第一部会員
	心理学・教育学委員会委員長	

志水 宏吉	大阪大学大学院人間科学研究科教授	第一部会員
	心理学・教育学委員会副委員長	
遠藤 薫	学習院大学法学部教授	第一部会員
	社会学委員会委員長	
岩崎 晋也	法政大学現代福祉学部学部長・教授	第一部会員
	社会学委員会副委員長	
若尾 政希	一橋大学大学院社会学研究科教授	第一部会員
	史学委員会副委員長	
宮崎 恒二	東京外国語大学名誉教授	第一部会員
	地域研究委員会委員長	
石川 義孝	帝京大学経済学部教授	第一部会員
	地域研究委員会副委員長	
松本 恒雄	独立行政法人国民生活センター理事長	第一部会員
	法学委員会委員長	
亀本 洋	明治大学法学部教授	第一部会員
	法学委員会副委員長	
古城 佳子	東京大学大学院総合文化研究科教授	第一部会員
	政治学委員会委員長	
荻部 直	東京大学大学院法学政治学研究科・法学部教授	第一部会員
	政治学委員会副委員長	
北村 行伸	一橋大学経済研究所教授	第一部会員
	経済学委員会委員長	
徳賀 芳弘	京都大学経営管理研究部教授・京都大学大学院経済学研究科教授	第一部会員
	経営学委員会委員長	
上林 憲雄	神戸大学大学院経営学研究科長・経営学部長・教授	第一部会員
	経営学委員会副委員長	
高村 ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター教授	第一部会員
	環境学委員会委員長	

(選考委員会生命科学選考分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
武内 和彦	公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長	第二部会員
	副会長、選考委員会委員	
石川 冬木	京都大学大学院生命科学研究科教授	第二部会員
	第二部部長、選考委員会幹事	
平井 みどり	兵庫県赤十字血液センター所長	第二部会員
	第二部副部長、選考委員会委員	
武田 洋幸	東京大学大学院理学系研究科長・教授	第二部会員
	第二部幹事、選考委員会委員	

丹下 健	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部会員
	第二部幹事、選考委員会委員	
城石 俊彦	理化学研究所バイオリソース研究センター長	第二部会員
	基礎生物学委員会委員長	
三村 徹郎	神戸大学大学院理学研究科教授	第二部会員
	基礎生物学委員会副委員長	
巖佐 庸	関西学院大学理工学部生命科学科教授	第二部会員
	統合生物学委員会委員長	
高木 利久	富山国際大学学長	第二部会員
	統合生物学委員会副委員長	
大杉 立	東京農業大学客員教授	第二部会員
	農学委員会委員長	
小田切 徳美	明治大学農学部教授	第二部会員
	農学委員会副委員長	
澁澤 栄	東京農工大学卓越リーダ養成機構特任教授	第二部会員
	食料科学委員会委員長	
甲斐 知恵子	東京大学生産技術研究所特任教授・東京大学名誉教授	第二部会員
	基礎医学委員会委員長	
	食料科学委員会副委員長	
菊池 章	大阪大学大学院医学系研究科分子病態生化学・教授	第二部会員
	基礎医学委員会副委員長	
神尾 陽子	(一社) 発達障害専門センター代表理事	第二部会員
	臨床医学委員会委員長	
名越 澄子	埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科教	第二部会員
	授 臨床医学委員会副委員長	
片田 範子	関西医科大学看護学部学部長・看護学研究科研究科	第二部会員
	長 健康・生活科学委員会委員長	
秋葉 澄伯	鹿児島大学名誉教授	第二部会員
	健康・生活科学委員会副委員長	
丹沢 秀樹	千葉大学大学院医学研究院教授	第二部会員
	歯学委員会委員長	
市川 哲雄	徳島大学大学院医歯薬学研究部教授	第二部会員
	歯学委員会副委員長	
望月 眞弓	慶應義塾大学病院薬剤部長、慶應義塾大学薬学部薬	第二部会員
	学研究科教授 薬学委員会委員長	
佐治 英郎	京都大学特任教授、京都大学名誉教授	第二部会員
	薬学委員会副委員長	

(選考委員会理学・工学選考分科会)

氏名	所属・職名	備考
渡辺 美代子	国立研究開発法人科学技術振興機構副理事 副会長、選考委員会委員	第三部会員
大野 英男	東北大学総長 第三部部長、選考委員会幹事	第三部会員
徳田 英幸	国立研究開発法人情報通信研究機構理事長 第三部副部長、選考委員会委員 情報学委員会委員長	第三部会員
高橋 桂子	国立研究開発法人海洋研究開発機構地球情報基盤センターセンター長 第三部幹事	第三部会員
米田 雅子	慶應義塾大学先導研究センター特任教授 第三部幹事 土木工学・建築学委員会委員長	第三部会員
大島 まり	東京大学大学院情報学環／生産技術研究所教授 選考委員会委員	第三部会員
松尾 由賀利	法政大学理工学部教授 選考委員会委員 物理学委員会副委員長	第三部会員
浅見 真理	国立保健医療科学院生活環境研究部上席主任研究官 環境学委員会副委員長	第三部会員
坪井 俊	東京大学大学院数理科学研究科教授 数理科学委員会委員長	第三部会員
小澤 徹	早稲田大学理工学術院先進理工学部応用物理学科教授 数理科学委員会副委員長	第三部会員
梶田 隆章	東京大学宇宙線研究所教授 物理学委員会委員長	第三部会員
藤井 良一	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構長 地球惑星科学委員会委員長	第三部会員
田近 英一	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授 地球惑星科学委員会副委員長	第三部会員
東野 輝夫	大阪大学大学院情報科学研究科教授 情報学委員会副委員長	第三部会員
加藤 昌子	北海道大学大学院理学研究院化学部門教授 化学委員会委員長	第三部会員
茶谷 直人	大阪大学環境安全研究管理センター長・教授 化学委員会副委員長	第三部会員
吉村 忍	東京大学副学長・大学院工学系研究科教授 総合工学委員会委員長	第三部会員

大倉 典子	中央大学大学院理工学研究科客員教授	第三部会員
	総合工学委員会副委員長	
藤井 孝藏	東京理科大学工学部情報工学科教授	第三部会員
	機械工学委員会委員長	
厨川 常元	東北大学大学院医工学研究科・研究科長・教授	第三部会員
	機械工学委員会副委員長	
大西 公平	慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュー ト特任教授	第三部会員
	電気電子工学委員会委員長	
波多野 睦子	東京工業大学工学院電気電子系教授	第三部会員
	電気電子工学委員会副委員長	
前川 宏一	横浜国立大学都市イノベーション研究院都市地域社 会専攻教授	第三部会員
	土木工学・建築学委員会副委員長	
山口 周	大学改革支援・学位授与機構研究開発部特任教授	第三部会員
	材料工学委員会委員長	
片岡 一則	公益財団法人川崎市産業振興財団副理事長・ナノ医 療イノベーションセンター長	第三部会員
	材料工学委員会副委員長	

●選考委員会運営要綱（抄）

平成17年10月4日
日本学術会議第1回幹事会決定

(組織)

第1 選考委員会（以下「委員会」という。）は、会長、副会長及び各部の4名（うち1名は役員とする。）以内の会員をもって組織する。

(分科会)

第2 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首又は適時に分科会の設置について幹事会に提案する。

分科会	調査審議事項	構成	備考
連携会員特別選考分科会	令和2年9月30日に任期が満了する会員に係る連携会員候補者の選考に関する事	委員会委員のうち、現に活動する期の末日までに会員を退任する又は会員としての任期が満了する委員以外の者	設置期間：令和2年1月1日～令和2年9月30日
人文・社会科学選考分科会	令和2年10月の改選に向けた会員候補者及び連携会員候補者の選考のうち、人文・社会科学分野に関する事	第一部の会員のうち、副会長、役員、委員会の委員並びに分野別委員会の委員長及び副委員長	設置期間：令和2年1月1日～令和2年9月30日
生命科学選考分科会	令和2年10月の改選に向けた会員候補者及び連携会員候補者の選考のうち、生命科学分野に関する事	第二部の会員のうち、副会長、役員、委員会の委員並びに分野別委員会の委員長及び副委員長	設置期間：令和2年1月1日～令和2年9月30日
理学・工学選考分科会	令和2年10月の改選に向けた会員候補者及び連携会員候補者の選考のうち、理学・工学分野に関する事	第三部の会員のうち、副会長、役員、委員会の委員並びに分野別委員会の委員長及び副委員長	設置期間：令和2年1月1日～令和2年9月30日

(庶務)

第3 委員会の庶務は、事務局企画課において処理する。

(雑則)

第4 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

【機能別委員会】

○委員の決定（追加1件）

（科学と社会委員会年次報告検討分科会）

氏名	所属・職名	備考
久留島 典子	東京大学史料編纂所教授	第一部会員

○委員の決定（新規 3 件）

(危機対応科学情報発信委員会自然災害情報発信分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
町村 敬志	一橋大学大学院社会学研究科教授	第一部会員 第一部部長
高橋 桂子	国立研究開発法人海洋研究開発機構地球情報 基盤センターセンター長	第三部会員 第三部幹事
中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター副所長・教 授	第三部会員
平田 直	東京大学地震研究所教授、地震予知センター長	連携会員
和田 章	東京工業大学名誉教授	連携会員

(危機対応科学情報発信委員会医療・健康リスク情報発信分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
秋葉 澄伯	鹿児島大学名誉教授	第二部会員
大倉 典子	芝浦工業大学名誉教授・SIT 総合研究所特任教 授／中央大学大学院理工学研究科 客員教授	第三部会員
杉田 敦	法政大学法学部教授	連携会員
芳賀 猛	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	連携会員
新山 陽子	立命館大学食マネジメント学部 教授	連携会員

(危機対応科学情報発信委員会産業災害情報発信分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
三村 徹郎	神戸大学大学院理学研究科教授	第二部会員
柴山 悦哉	東京大学情報基盤センター教授	第三部会員
城山 英明	東京大学法学政治学研究科教授	連携会員
萩原 一郎	明治大学研究・知財戦略機構・特任教授、東京 工業大学名誉教授	連携会員
松岡 猛	宇都宮大学基盤教育センター非常勤講師	連携会員

向殿 政男	明治大学顧問・名誉教授	連携会員
矢川 元基	公益財団法人原子力安全研究協会会長、東京大学名誉教授、東洋大学名誉教授	連携会員

分野別委員会運営要綱(平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改正後					改正前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
経営学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	経営学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	経営学委員会経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会	1. 経営学・会計学の領域で行われている採用・昇格における業績評価の仕方の調査・検討 2. 「設置目的」で示した問題意識から、あるべき評価方法の提示に係る審議に関すること	20名以内の 会員又は連 携会員	平成29年10月30日～令和2年9月30日		経営学委員会経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会	1. 経営学・会計学の領域で行われている採用・昇格における業績評価の仕方の調査・検討 2. 「設置目的」で示した問題意識から、あるべき評価方法の提示に係る審議に関すること	13名以内の 会員又は連 携会員	平成29年10月30日～令和2年9月30日
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

経営学委員会分科会の設置について

分科会等名：経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	経営学委員会
2	委員の構成	<u>20名以内</u> の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>近年、米国流の業績評価方法が日本における経営学・会計学の領域においても普及してきており、その弊害として、若手研究者がグランドセオリーのみならず中範囲の理論すら無視して、狭隘な研究対象に関する実証研究に取り組む傾向がある。また、その研究者に対する評価方法の変化は、大学院生の研究姿勢に強い影響を与えている。</p> <p>当分科会は、実証・実験を重視する自然科学的「科学性」という点では経営学における実証研究には意味があると考えているが、日本のこれまでの経営学・会計学における「体系性」を重視した研究（歴史研究も含む）も失われるべきではないと考えている。</p> <p>当分科会は、経営学・会計学における「体系性」を考慮した、公平性の高い評価方法を提示することを目的としている。</p>
4	審議事項	<p>1. 経営学・会計学の領域で行われている採用・昇格における業績評価の仕方の調査・検討に係る審議</p> <p>2. 「設置目的」で示した問題意識から、あるべき評価方法の提示に係る審議に関すること。</p>
5	設置期間	平成29年10月30日～令和2年9月30日
6	備考	※委員の構成の変更(委員の構成を20名以内の会員又は連携会員に変更)

【委員会及び分科会】

○委員の決定（追加3件）

（言語・文学委員会）

氏名	所属・職名	備考
原田 範行	東京女子大学現代教養学部教授	第一部会員

（第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会）

氏名	所属・職名	備考
久留島典子	東京大学史料編纂所教授	第一部会員

（経営学委員会経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会）

氏名	所属・職名	備考
西尾チヅル	筑波大学ビジネスサイエンス系教授	第一部会員
瓜生原葉子	同志社大学商学部准教授	連携会員
佐藤 信彦	熊本学園大学大学院会計専門職研究科専任教授	連携会員
仙石 正和	事業創造大学院大学学長・教授	連携会員
原 拓志	神戸大学大学院経営学研究科教授	連携会員
藤田 誠	早稲田大学商学学術院教授	連携会員
村松 潤一	岡山理科大学経営学部教授、広島大学名誉教授	連携会員

【小委員会】

○委員の決定（追加1件）

（総合工学委員会原子力安全に関する分科会福島第一原発事故調査に関する小委員会）

氏名	所属・職名	備考
吉村 忍	東京大学副学長・大学院工学系研究科システム創成学専攻教授	第三部会員

令和元年度代表派遣実施計画における派遣者の決定について

以下のとおり、令和元年度代表派遣実施計画における派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
1	宇宙空間研究委員会 (COSPAR) 第 90 回理事会	3 月 16 日 ～ 3 月 19 日	パリ (フランス)	藤本 正樹 特任連携会員 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究 所副所長、教授)	・派遣者の決定 ※実施計画については第 275 回幹事 会(平成 31 年 2 月 28 日)にて承認済 み。

公開シンポジウム「アジア近隣諸国との対立と協働—学術ネットワークを
いかに継続的に構築するか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分
科会、日本学術会議政治学委員会比較政治分科会
2. 共 催：科研基盤研究強化支援推進プログラム（青山学院大学）、他検討中
3. 後 援：検討中
4. 日 時：令和元年12月20日（金）13：20～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

東アジアの近隣諸国関係が悪化している中、日本近代において国際協調の思想が一貫して存在しつつも、東アジアでは隣国との関係において戦争を防ぐことができなかったという、歴史の重大な教訓から、「アジア近隣国との対立や不安定化の先鋭化の中で、いかに近隣諸国との学術ネットワークを恒常的に構築し、安定と繁栄を維持し続けるか」は、この地域で2度と戦争を起こさず、かつ安定と繁栄を維持し続けるために極めて重要な課題であり、学術研究者としての責務でもあると考える。

本シンポジウムでは、日本、中国、韓国、沖縄との連携、さらに ASEAN、EU のガバナンスや不戦共同体、エネルギーの共同などに学びつつ、いかに対立が継続する中で、大学人や市民、若者の恒常的な学術的ネットワーク構築が、地域の安定と平和・発展に寄与するかを立証し、それを制度的にも実現していくことを目指し、シンポジウムを開催する。

8. 次 第：

13：20 開会挨拶

宮崎恒二（日本学術会議第一部会員・地域研究委員会委員長、東京外国語大学名誉教授）

13：30 開催趣旨

羽場久美子（日本学術会議連携会員、青山学院大学国際政治経済学部教授）

司会 小谷汪之（日本学術会議特任連携会員、東京都立大学名誉教授）

報告

13：40 油井大三郎（東京大学名誉教授、一橋大学名誉教授）

「1920年代の日本の国際協調主義と東アジアの地域協力」

14：00 貴志俊彦（日本学術会議連携会員、京都大学東南アジア地域研究所教授）

「戦時下の日中相互認識のずれ—初の大陸映画「東洋平和の道」をめぐって」

- 14 : 20 劉傑（早稲田大学社会科学総合学術院教授）
「中国の一带一路政策と、アジアの学術共同」
- 14 : 40 磯崎典世(日本学術会議連携会員、学習院大学法学部教授)
「日韓の対立と協働、学術ネットワークの構築」(仮)
- 15 : 00 大日方純夫（日本学術会議連携会員、早稲田大学文学部教授）
「歴史認識をめぐる協力と協働－日中韓3国共通歴史書の挑戦」
- 15 : 20 首藤もと子（筑波大学名誉教授）
「ASEAN 連結性をめぐる地域的ガバナンスと教育・学術交流の課題」
- 15 : 40 佐藤学（沖縄国際大学教授）
「沖縄から見る世界秩序の変動－「最前線」からの報告」

16 : 00～16 : 20 休憩

16 : 20 総合討論・シンポジウム

司会 小谷汪之 (同)

コメンテーター (各 10 分)

16 : 20 金山直樹（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授）「国際法から」

16 : 30 羽場久美子 (同) 「EU の対立と協働の観点から」

16 : 40－17 : 25 フロアからの質問、コメント

17 : 25 閉会挨拶

宮崎恒二 (同 地域研究委員会委員長)

17 : 30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「ゲノムビッグデータ解析の新潮流」の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会生物系薬学分科会、日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会
2. 共 催：日本薬学会
3. 後 援：日本生命科学アカデミー
4. 日 時：令和2年1月17日（金）13：30～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：次世代シーケンサーに代表されるゲノム配列解読技術の著しい発達により、大容量のヒトゲノムデータが日常的に出力される時代が到来した。数十万人規模の疾患ゲノム解析により、数千もの疾患に対するリスク遺伝子変異が同定されている。しかし、得られた疾患ゲノム情報を適切に解釈し、疾患病態解明や創薬、そして社会実装へとつなげる具体的な試みは道半ばである。ゲノムビッグデータに潜む可能性を最大限に活用するためには、学際分野横断的な情報解析技術の融合が不可欠である。

本シンポジウムは、ゲノムビッグデータ解析の最前線における研究活動をテーマとした。シングルセル解析、免疫ゲノミクス、遺伝統計学、大規模ゲノム解析、人工知能など、新進気鋭の若手研究者が取り組んでいる最新の情報解析技術が、どのような新潮流を開拓しつつあるか、紹介したい。

8. 次 第：

13:20～13:25 開会挨拶：土井 健史（日本学術会議薬学委員会生物系薬学分科会委員長、大阪大学大学院薬学系研究科教授）

座長：三浦 正幸（日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科教授）

笠原 忠（日本学術会議連携会員、自治医科大学分子病態治療研究センター客員教授）

13:25～13:30 実行委員長挨拶： 岡田 随象（大阪大学大学院医学系研究科遺
伝統計学教授）

13:30 1. 循環器疾患のシングルセルオミクス解析

野村征太郎（東京大学医学部附属病院循環器内科特任助教）

14:10 2. 次世代免疫ゲノミクスによる腫瘍免疫システムの解析

加藤 洋人（東京大学大学院医学系研究科衛生学准教授）

14:50 3. 遺伝統計学で迫る疾患病態解明とゲノム創薬

岡田 随象（大阪大学大学院医学系研究科遺伝統計学教授）

15:30 4. 高血圧の大規模ゲノム解析

竹内史比古（国立国際医療研究センター研究所遺伝子診断治療開
発研究部室長）

16:10 5. ヒトビッグデータのAI解析と社会実装に向けて

瀬々 潤（ヒューマノーム研究所代表取締役社長）

16:55 座長挨拶

16:55 閉会挨拶：高倉喜信（日本学術会議連携会員、日本薬学会会頭、京都大
学大学院薬学系研究科教授）

17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「グローバル行政ネットワークと国際機関：
地球と共生するためのガバナンスの在り方を模索して」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会国際政治分科会

2. 共 催：名古屋大学環境学研究科、国立環境研究所

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和2年2月15日（土）13：30～17：00

5. 場 所：名古屋大学環境総合館1階レクチャーホール

6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

昨今の、中国、インド、ブラジルなどの新興国の台頭、急速に進む経済のグローバル化、および企業やNGOといった新たなプレイヤーの登場により、国際政治構造は大きく変容しつつあります。さらに、国内に目を向けると、これまで戦後の国際政治秩序を支えてきた米国や欧州諸国において「自国ファースト」の傾向が強まっています。その結果、異なる世界観や利益を持つ多様なプレイヤーが国際政治を駆動するようになってきているだけでなく、グローバルな問題解決の鍵を握る主要国自身が今や内向きになっています。このような状況下で、はたして国際社会は、一致協力して気候変動、生物資源の枯渇、あるいはプラスチックによる海洋汚染といった地球規模の環境問題を解決できるのだろうか。そのような問題解決に必要な「協力」の力学には、未来はあるのか。これらの問いに答えるには、この「協力」の力学を支える、政府間組織、科学者集団および環境NGOなどから成るグローバルな行政ネットワークの潜在的統治能力を問わなければならないであろう。国際政治学の分野でも、グローバルな行政ネットワークを重視する分析枠組として、知識共同体論やオーケストレーション論といった分析視座が提示され、グローバルな課題解決に向けた国際行政や国際政治の在り方に関する研究が進展しています。そこで、本フォーラムでは、地球環境問題の解決に関与する「統治者」ネットワークに焦点を合わせて、関係分野の研究者、政府間組織での実務経験を持つ行政官、NGOの代表者、および科学者を糾合することを通じて、国際環境行政の実践と研究を融合するトランスディシプリナリーな対話を実現したい。

8. 次 第：

13:30～13:45 挨拶

古城佳子（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）
西澤泰彦 名古屋大学環境学研究科長

13:45～14:00 趣旨説明

山田高敬（日本学術会議連携会員、名古屋大学環境学研究科教授）

14:00～14:30 実務家の視点から

早水輝好（国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康研究センタープロジェクトアドバイザー）

14:30～15:00 NGO の視点から

小西雅子（WWF ジャパン 専門ディレクター[環境・エネルギー]）

15:00～15:10 休憩

15:10～15:40 環境政策学の視点から

香坂 玲 名古屋大学環境学研究科教授

15:40～16:10 国際政治学の視点から

亀山康子（日本学術会議連携会員、国立環境研究所社会環境システム研究センター副センター長）

16:10～17:00 ラウンドテーブル討論

司会 野村 康 名古屋大学環境学研究科教授
登壇者

討論者 谷川寛樹 名古屋大学環境学研究科教授
依田 憲 名古屋大学環境学研究科教授

司会進行 赤渕芳宏 名古屋大学環境学研究科准教授

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「総合工学シンポジウム2020
— 文理の協創によって社会的課題に立ち向かう —」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会
2. 共 催：なし
3. 後 援：エコデザイン学会連合、横幹連合、公益社団法人日本工学会、日本計算力学連合、公益社団法人応用物理学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人可視化情報学会、公益社団法人計測自動制御学会、サービス学会、一般社団法人資源・素材学会、一般社団法人情報処理学会、公益社団法人精密工学会、一般社団法人人工知能学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、一般社団法人日本応用数理学会、日本感性工学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、公益社団法人日本地震工学会、公益社団法人日本生体医工学会、公益社団法人日本設計工学会、日本船舶海洋学会、日本知識情報フェジイ学会、一般社団法人日本ロボット学会、一般社団法人ライフサポート学会（予定）
4. 日 時：令和2年3月12日（木）13：00～18：00
5. 場 所：日本学術会議講堂 他1室
6. 分科会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：

様々な技術が発達した現代社会は、各技術が人間系も含めて相互に緊密に関連しながら形成されている巨大複雑系システムと捉えることができる。このような状況において、SDGsに象徴される様々な社会的課題に立ち向かうためには、単一の学術領域からのアプローチには限界があり、人文社会系と理・工系や医学・生命系の多様な学術領域の協創によって課題に取り組むことが求められる。

2005年に始まった第20期日本学術会議において、新たな理学・工学分野として総合工学委員会が誕生し、学術の総合工学的アプローチの役割や深化について検討を進めてきた。2014年10月からの第23期においては、東日本大震災の経験から学んだことももとに、総合工学を再定義し、それが果たすべき役割について検討を深め、その結果をとりまとめ、2017年9月6日に提言「社会的課題に立ち向かう『総合工学』の強化推進」を公表した。2017年10月から始まった第24期においては、その提言の内容を咀嚼し、社会展開を進め、さらに深掘りするため

の検討を進めている。

本シンポジウムでは、多様な学術分野の連携の中でも特に昨今重要性が増している「文理の協創」に着目し、「文理の協創によって社会的課題に立ち向かう」をテーマとして開催する。第I部ではその基盤として期待される、総合化アプローチ、アートの発想、E L S I と参加型テクノロジー・アセスメント、A I と社会、について講演をいただく。第II部では、具体的な文理の協創による社会的課題への取り組み事例として、自動運転およびスマートシティの観点からそれぞれ紹介いただく。第III部では、教育と人材育成の観点から、文理の協創を進めていく上での課題や今後の展開について講演者と参加者が一緒になって討議を行う。

8. 次 第：

司 会 所 千晴（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院教授）

13:00～13:10

開会挨拶 渡辺 美代子（日本学術会議副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構 副理事）

【第I部】

13:10～13:40 総合工学の4つのカテゴリーと総合化アプローチ

—23期提言「社会的課題に立ち向かう『総合工学』の強化推進」の議論から—

吉村 忍（日本学術会議第三部会員、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授）

13:40～14:10 アートの発想

岡田 猛（東京大学大学院教育学研究科／学際情報学府教授）

14:10～14:40 E L S I と参加型テクノロジー・アセスメント

小林 傳司（日本学術会議第一部会員、大阪大学COデザインセンター教授）

14:40～15:10 A I と社会：一人学際と対話の場作りの試み

江間 有沙（東京大学未来ビジョン研究センター特任講師）

15:10～15:30 休憩

【第II部】

司 会 大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学特任教授）

15:30～16:00 自動運転をめぐる文理の協創の取り組み

永井 正夫（日本学術会議連携会員、日本自動車研究所代表理事・研

究所長)

16:00～16:30 スマートシティをめぐる文理の協創の取り組み

出口 敦 (東京大学大学院新領域創成科学研究科副研究科長・教授)

16:30～16:40 休憩

【第III部】

16:40～17:50 パネル討論：文理の協創アプローチの教育と人材育成

ファシリテータ：小山田 耕二 (日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授)

パネリスト： 各講演者

17:50～18:00

閉会挨拶 大倉 典子 (日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学特任教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム「第2回ラーニングアナリティクスによる
エビデンスに基づく教育に関するシンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会・情報学委員会合同教育データ
利活用分科会
2. 共 催：SoLAR (Society for Learning Analytics)、一般社団法人日本オー
プンオンライン教育推進協議会 (JM00C) 早稲田大学グローバルエデュケーシ
ョンセンター (予定)
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和2年 3月15日 (日) 13:00～17:30
5. 場 所：早稲田大学早稲田キャンパス国際会議場井深大記念ホール
6. 分科会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：教育・学習活動に関するデータを有効活用して、エビデンスに基
づく教育、およびそのデータを活用した研究を推進してゆくことは、人材の育
成にとって最優先の重要な課題である。また、教育・学習活動に関するデータ
は個別の教育機関での利活用だけではなく、全国的にも利活用できる仕組みを
作ることが、教育政策を議論する上で欠かせないものとなっている。そこで、
日本学術会議では、①教育・学習関連データの収集、利活用に関する国内外の
現状把握と問題点の整理、②教育・学習関連データとして収集するデータの種
類とそのデータが教育効果測定に果たす役割の整理、③全国レベルでデータを
収集する上でのデータの標準化等に係る問題の整理に関して議論を進めるため
に、心理学・教育学委員会と情報学委員会合同で、教育データ利活用分科会を
設立致した。本シンポジウムでは、教育データの収集と分析（ラーニングアナ
リティクス）に関する政策関係者並びに研究者を招き、教育データの利活用と
エビデンスに基づく教育の実現について議論する。
8. 次 第(予定)：
12:30 開場
13:00 開会
緒方広明 (日本学術会議連携会員、京都大学学術情報メディアセンター
教授)

基調講演（案）

13：15 美濃導彦（日本学術会議第三部会会員、情報学委員会 教育データ利活用分科会委員長、国立研究開発法人理化学研究所理事）

13：45 桐生崇氏（文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課学びの先端技術活用推進室長）

14：15 浅野大介氏（経済産業省 商務情報政策局 商務・サービスグループサービス政策課長）

14：45 村瀬剛太氏（総務省情報流通行政局 情報流通振興課情報活用支援室長）

15：15 休憩

15：30 事例紹介（案）

楠見孝（日本学術会議連携会員、京都大学大学院教育学研究科教授）

松下佳代（日本学術会議第一部会会員、京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

菅原ますみ（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授）

京都市教育委員会

京都市立西京中学・高等学校

16：30 パネル討論（テーマ・教育データの利活用の将来について考える）

（パネリスト（案））

司会：緒方広明（日本学術会議連携会員、京都大学学術情報メディアセンター教授）

谷口倫一郎（日本学術会議第三部会会員、九州大学大学院システム情報科学研究科教授）

遠藤利彦（日本学術会議第一部会会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

西田眞也（日本学術会議第一部会会員、京都大学大学院情報学研究科教授）

柴山悦哉（日本学術会議第三部会会員、東京大学情報基盤センター教授）

宮地充子（日本学術会議第三部会会員、大阪大学大学院工学研究科教授）

乾健太郎（日本学術会議連携会員、東北大学大学院情報科学研究科教授）

原田悦子（日本学術会議連携会員、筑波大学人間総合科学研究科教授）

藤村宣之（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

前田香織（日本学術会議連携会員、広島市立大学大学院情報科学研究科教授）

美馬のゆり（日本学術会議連携会員、公立はこだて未来大学システム情報科学部教授）

17：30 閉会

18：00 懇親会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「歴史認識と植民地責任」の開催について

1. 主 催：日本学術会議言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同アジア研究・対アジア関係に関する分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和2年3月15日（日）13：30～17：00
5. 場 所：東京大学法文2号館1番大教室（東京都文京区）
6. 分科会等の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：アジア等におけるいわゆる「歴史認識」問題は、現在もっぱら狭義の政治的イシューとしてのみ争点化され、取り上げられることが多いが、元来、より広い世界史的文脈に位置づけ、学術的な見地から、客観的に検討・議論されるべき重要な問題である。戦争や植民地支配の責任、「記憶」、歴史認識・歴史意識の形成の問題は、現代世界が均しく直面する課題としてグローバルな広がりを持つ。本シンポジウムでは、東アジアの歴史研究、戦争責任・戦後補償問題、さらには「植民地責任」や「記憶」をめぐる世界的な議論の動向を踏まえた諸報告を組み合わせ、多角的議論を行なうことで、認識の深化を図ることをめざす。
8. 次 第：
 - 13：30 開会の辞：吉澤誠一郎（日本学術会議連携会員、東京大学文学部教授）
（司会）久保亨（日本学術会議連携会員、信州大学特任教授）
 - 13：50 報告1：朝鮮近代史研究の立場から
慎蒼宇(法政大学社会学部准教授)
 - 14：20 報告2：戦争責任・アジアにおける戦後補償問題の角度から
内海愛子（恵泉女学園大学名誉教授）
 - 14：50 報告3：世界史的視角——植民地責任と帝国の「記憶」、歴史意識のあり方
井野瀬久美恵（日本学術会議連携会員、甲南大学文学部教授）
 - 15：20～15：30 （ 休憩 ）
 - 15：30 パネルディスカッション・総合討論
（司会）久保亨
栗田禎子（日本学術会議第一部会員、千葉大学文学部教授）
 - 17：00 閉会挨拶

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「第9回防災学術連携シンポジウム 低頻度巨大災害を
考える」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議防災減災学術連携委員会、日本学術会議土木工学・建築学委員会低頻度巨大災害分科会
2. 共 催：防災学術連携体
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和2年3月18日（水）12：30～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

われわれは、地震や台風、火山噴火など、地球規模の物理的な営みの影響を受ける環境の中に暮らしている。地球の営みは人間の一生よりもはるかに長いスケールで変化・変動しており、人類が地球上に現われたのちに注目しても、記録が文書に残されるより以前から、われわれの祖先は多様な自然災害に見舞われながら生きていたはずである。本シンポジウムでは、現在の社会の構築、構造物の設計や防災活動において、一般的に想定している自然外乱よりも、発生頻度は低いが、もし発生するとわれわれの社会に非常に大きな影響を及ぼし国難級の被害となる巨大大自然災害を対象として議論したい。これらの中には防ぐことが極めて困難な災害も含まれると予想されるが、学術分野として躊躇することなく、これらの発生の可能性を把握しつつ、取組みの方向性を考えておく必要がある。

この低頻度巨大災害を引き起こす極端な自然事象の発生の可能性を、現在までに得られている科学的知見に基づき、理学系各分野の専門家より解説していただき、これらが社会に及ぼす影響について工学系、および人文・社会科学系の各分野の専門家より発表していただく。これらをもとに、今後の学術分野における取組みの方向性を議論する。

8. 次 第：

司会

田村 和夫（日本学術会議連携会員、建築都市耐震研究所代表）

12:30 開会挨拶

12:32 趣旨説明

米田 雅子（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学先導研究センター特任教授）

12:35 講演「低頻度巨大災害分科会の提言案について」

寶 馨（日本学術会議連携会員、京都大学大学院総合生存学館（思修館）学館長・教授

13:00 「低頻度巨大災害の可能性」の発表

低頻度巨大災害に関わる自然事象の発生可能性と社会への影響について、防災学術連携体を構成する 57 学会から発表者（1 学会から 1 人）を募集する。防災減災学術連携委員会の委員からも発表者を募集する。

発表時間は発表者数によって決める。

次は、現在想定している災害である。

- ・巨大地震（極大地震動、巨大津波を含む）
- ・巨大台風（高潮、強風、豪雨、大規模地盤崩壊などを含む）
- ・火山の大規模噴火
- ・地球温暖化による海面上昇
- ・巨大竜巻
- ・熱波・寒波・干ばつ・大雨
- ・宇宙飛翔体衝突
- ・事象の組み合わせ（例えば巨大台風＋大地震）
- ・その他低頻度巨大災害全般に関わること

17:00 ディスカッション

発表者と会場とで、低頻度巨大災害に関する今後の対応や方向性について、ディスカッションを行う

17:27 閉会挨拶

17:30 終了

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は主催委員会・分科会委員）

Global Young Academy 総会
(Global Young Academy Annual General Meeting and Conference)

「科学の再生：包括性と持続性に向けた価値の変革のための
感性と理性のリバランス」の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー
2. 共 催：Global Young Academy、日本学術協力財団（予定）
3. 後 援：政策研究大学院大学、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)及び関連分野の学会（未定）
4. 日 時：令和3年5月16日（日）～21日（金）
5. 場 所：日本学術会議会議室及び政策研究大学院大学（予定）
※ワークショップを日本学術会議会議室、開会式閉会式を政策研究大学院大学で開催検討中。
6. 分科会等の開催：検討中
7. 開催趣旨：

科学の発展によってもたらされる技術が社会の発展に貢献することが明らかになって以来、より社会応用力の高い研究の促進、政策提言や社会へのアウトリーチ活動など、「社会に貢献する科学」のための多彩な役割が科学者に求められるに至っている。現象解明のためのプロジェクトの大型化や科学の職業化等に伴い、科学的探究のためのリソースの多くを社会に頼ることとなった。

このような20世紀の科学の歴史を踏まえ、本会議では科学の移行期にいる若手科学者が世界中から集結し、21.5世紀の科学者が追求するものは何かを問う。問いは、科学者は何を追求すべきかという観念的な視点からではなく、パトロンである社会との関係性、シチズンサイエンスの台頭に表れている科学のプレイヤーの今日の変化といった文脈から問われる。また、(合)理性という観点からは科学的対象から排除され、一方で人間社会を豊かにしてきた経験、感性、情緒といったものに対して、科学はどのように折り合いをつけるのかを、日本発の「ポストSDG's時代の科学的ビジョン」として議論する。

8. 次 第：(検討中)

5月16日(日)

【オープニング】

- ・主催者及び来賓の挨拶
- ・「日本学術会議若手アカデミーの紹介(仮)」

岸村 顕広(日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表、九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授)

新福 洋子(日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー副代表、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻家族看護学講座准教授)

岩崎 渉(日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事、東京大学大学院理学系研究科准教授)

5月17日(月)～20日

【講演会及びワークショップ】

5月21日(金)

【クロージング】

参加者：(見込み)

- ・日本学術会議若手アカデミー会員
- ・Global Young Academy 会員
- ・若手研究者に参加を呼び掛ける

(下線の登壇者は若手アカデミー会員)

※(備考) 来期における体制の確保について：

今期若手アカデミー会員で、かつ24-25期連携会員である岸村 顕広、岩崎 渉、高瀬 堅吉、竹村 仁美、西嶋 一欽、中西 和嘉、安田 仁奈をメンバーに含む国内組織委員会を設置して、来期においても切れ目なく準備を進めるための体制を整えています。